

モニタリングシート（法学科）

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
1	前年度の向上・改善施策の実施状況（成果・課題・継続事項）はどのような状況か。	・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策	向上・改善施策を踏まえて、選択制としている学科独自のサポートプログラム（「らしつよサポートプログラム」）について未参加の学生に対しても利用可能なプログラムとなるよう検討を進めること、法学部の強み・理念を言語化し、各教員が学科全体の教育目標、カリキュラム等とのつながりを明確にすることを継続的に取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> ・「らしつよサポートプログラム」に未参加の学生が多いことが課題としてあげられる。 ・各学部ホームページの記入の自由度があることを認識できたので、これを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「らしつよサポートプログラム」について、複数年の推移を踏まえつつ参加者を増やすための方策（開講時期、開講期間など）を検討する必要がある。 ・今年度のFD活動等を通じて取り組みを実施する。
2	経年でみた志願者動向はどのような状況か。	・各種入試結果（入試区分別・高校ランク等）	入試広報課からの報告および個別のレクチャーにより学科内で志願者状況の把握に努めた。引き続き入試広報課と協力して、志願者動向等の情報共有をしていくとともに、広報活動、高校訪問、出張講義などを継続的に行う。	法学部に関する広報（パンフ等）が他大学のものと差別化できていない（例えば、資料として龍谷大学 https://issuu.com/ryukoku/docs/2024_law ）	学科内WGにおいて、学科の魅力向上に向けた議論をしており、それを取りまとめて外部に発信する。
3	経年でみた新入生の動向はどのような状況か。	・新入生アンケート（第一志望・選択理由・本学への期待等）	新入生アンケート結果によれば、法学部の入学者は、「少人数・ゼミ形式の授業の充実」（43%）、「専門的な知識が身につく授業が多い」（37%）、「資格取得」（36%）に期待していることから、今後も受験生に対して継続的に法学部の学びの魅力を打ち出していく必要がある。	新入生アンケート結果によれば、法学部の選択理由が「就職率が良い」（42%）、「女子大だから」（37%）、「学びたい学問がある」（28%）となっており、本学への期待と学部を選択理由との間に齟齬はあまりないが、一方で全学平均よりも第一志望の学生が少ない点に課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生アンケートの結果について学科内で共有し、新入生のニーズの把握に努める。 ・第一志望の受験生を増やすことができるよう法学部の魅力を受験生に向けて発信していく。
4	DP・CPと関連したカリキュラムが各学位プログラムレベルで適切に設計されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップの状況 ・ALCS 学修行動比較調査（経験） ・卒業時アンケート 	昨年度、カリキュラムマップの見直しを行い、各授業のDP修得の実態に即したマップの整備をした。引き続きDP修得の実態の把握につとめるとともに、CPとDPの関連を意識する。	学位プログラムのDPの配分には偏りがあり、特に「知識・理解」「思考・判断」の項目の配分が多いが、法学科カリキュラムのコアである法律学、政治学という学問分野の特性が涵養されていることを示しており、特に課題とするものではない。	全学DP見直しスケジュールに合わせて、学科DPの見直しも行っていく。また、ジェンダー法学の学びの可能性を強調する。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
5	カリキュラム・授業は、適切に運営されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート ・ALCS 学修行動比較調査（経験） ・卒業時アンケート ・最低修業年限卒業率 	2022 年度前期および後期の「授業アンケート」集計結果によれば、授業実施において特段の問題は生じておらず、また卒業時アンケートの回答によれば、CP に定められた内容について、学修経験に反映されているものと考えられる。今後もこれらのデータを参照しつつ、継続的に取り組みを実施していく。	特になし。	特になし。
6	DP にもとづく学修成果の到達度の状況。	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリックスキル測定テスト（3 回生） ・ALCS 学修行動比較調査（修得度） 	「ACLS 学修行動比較調査」、「卒業時アンケート」および「ジェネリックスキル測定テスト」の結果によれば、学科において身につけてほしい DP の修得にかかる学生の実感および修得状況は概ね良好である。	一部の DP について、修得にかかる学生の実感および修得度が低いものがあるが、著しく低いものではないことから、課題とまではいえない。	DP の修得度について、許容できる状況とはどの程度のものなのかを明確にし、必要があれば対策の検討が必要である。
7	進路・就職及び免許・資格取得状況。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時アンケート（修得度） ・進路・就職結果データ ・免許・資格取得状況 	「進路・就職結果データ」によれば、2020 年度 96.5%、2021 年度 98%、2022 年度 98.8%と、進路・就職状況に大きな偏りはなく、概ね良好である。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職状況に大きな課題はない。 ・法学科固有の問題かどうかについては検討が必要であるが、他学科に比べて実就職率および未決定者が多いことを指摘することができる。資格取得や試験などを受験するための準備（試験勉強や予備校への通学など）や家業の仕事に従事しているが、「就職」として届け出ていないことが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学科内での進路・就職等の状況を把握し、変化が生じた場合にはすぐに対処できるよう情報共有を行っていく。 ・ゼミ等の教員などを通じて、進路・就職についての届を出すよう指導をしていく。
8	各科目の成績および卒業論文・研究が適切に評価されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目の成績分布 ・卒業論文・研究の判定結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価については、「ACLS 学修行動比較調査」から見た満足度のデータによれば、「学んだ成果に対する評価のされ方」について、1 回生で 88%、3 回生で 81.%の学生が「満足」と回答しており、いずれも全体平均値以上である。 ・【2020～22】「科目区分別成績分布（平均得点）」によれば、法学科専門科目の平均得点は全体平均と近く、年度別学科専攻別 卒業生の累積 GPA 分布（2020～2022）や、【2020～22】「科目区分別成績分布（評価区分別）」によれば、バランスの取れた成績分布となっている。 	現状問題は見られないが、同一科目や卒業研究等についての成績評価、基準は各教員の裁量になっており、学科内で考え方を共有する必要がある。	学科内で自己点検・評価の重点項目となっていることを共有し、学科内で成績評価および卒業研究の成績評価、基準について、教員どうしの考え方を共有していく。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
9	職位・年齢のバランス、非常勤比率に留意し、かつ、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・所属教員の状況 ・科目群別非常勤比率 	<ul style="list-style-type: none"> ・「所属教員の状況」によれば、法学科全体の平均年齢は54歳、「令和5年度各学科・専攻の教員数」によれば教授率が87.5%、女性比率が56.5%となっており、学部創設当初より適正な年齢、性別のバランスを保っている。 ・必修科目担当教員について、一部の例外はあるが、原則として必修科目はすべて専任教員が担当しており、専門教育において重要な科目は専任教員が担当する体制が整っているといえる。 ・法学科専門科目における「科目群別非常勤比率」は、他学科に比べて例年非常に低く、2021年度25%、2022年度24%にとどまっております、大半の科目を専任教員の担当していることがわかる。 	職位や年齢の構成については、学部創設以降時間の経過とともに偏りが生じてきているが、今後の採用人事において調整を図る必要がある	教員の職位や年齢の偏りを調整するため、今後、学科としての教員採用のあり方を考える必要がある。
10	学科個別のFDについて、課題認識および今後の方向性、外部環境を踏まえたFDを実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・FDの取り組み状況 ・前年度点検シート ・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策 	<ul style="list-style-type: none"> ・法学科では毎年、FD活動として2021年度および2022年度後期に学生（ピア・サポーター）との意見交換会を実施しており、今後も継続的に意見交換を行っていく。 ・2022年度および2023年度前期に専門の外部講師の協力を得て、法学部の強みを確認し共有するセミナーを開催し、その内容を踏まえて今後もカリキュラムや授業改善等、学部としての教育効果の向上に継続的に取り組んでいく。 	2022年度および2023年度前期に実施したセミナーにおいて、競合他校と比較して自分たちの「強み」となるポイントをピックアップし確認する作業およびそのような「強み」を絞り込み、明確化・言語化することまで進めることができたが、今後、学科の教育の特徴、カリキュラム等とのつながりを明らかにし、対外的にそれを打ち出していくことが必要となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・法学科のピア・サポーターとの意見交換会は今年度も実施する。 ・法学部の強みについて、内部での周知に加え、外部にも打ち出していく。
11	上記以外で「継続すること」「課題」「次へのアクション」「全学レベルで検討すべき事項（提案）」があれば入力	<ul style="list-style-type: none"> ・各種データ 	特になし。	特になし。	特になし。